九州自動車道と隼人道路が直結

待望の加治木ＪＣＴが開通

大隅の活性化へ期待

日本道路公団が建設を進めてきた九州自動車道の加治木ジャンクション（ＪＣＴ）が19日完成し、姶良郡加治木町の現地で西田行宏日本道路公団九州支社長や須賀龍郎県知事をはじめ、県出国会議員、沿線町長、用地提供者ら約200人が出席して開通を祝った。

開通祝賀式では、西田支社長が「ＪＣＴの完成によりスムーズな走行が図られるほか、大隅地区の地域社会の活性化につながることを願っています」と挨拶。須賀知事や県出国会議員らが祝辞を述べた後、かずみ保育園の園児らと一緒に町木のクスノキを植樹した。

待望の開通を祝い、関係者が通り初め＝加治木町の加治木ＪＣＴで

開通した加治木ＪＣＴ

開通式では、須賀知事ら7人が紅白のテープにはさみを入れ、川野威朗加治木町長や用地提供者ら10人がくす玉を割って開通を祝ったほか、パトカーに先導されて通り初めを行った。

加治木ＪＣＴは、事業費約60億円をかけて平成11年3月から工事着手。今回の開通で、現在供用中の九州自動車道と隼人道路が直結されるだけでなく、隼人東ＩＣを経由して来年3月完成予定の国分ＩＣ～末吉財部ＩＣ（22・5㎞）と一体となることで大隅地方の高規格幹線道路のネットワーク形成、利便性の向上が期待される。

明日に駆ける

ユーザーに信用される営業を

㈱シートック 販売本部営業課 上福元 亨さん

9月入社のニューホープ。営業畑一筋に生きてきたが、建設業界は初めて。「毎日が勉強です。とにかく顔を売り、ユーザーの皆様から信用される営業マンになりたい」と決意を語る。花立廣美本部長も「当社は11月に創業30周年を節目として枕崎コンクリート工業㈱を㈱シートックに社名変更。心機一転の環境下で、元気の良さと真摯な人柄を武器に頑張ってほしい」と期待を寄せる。

9月から1カ月間、研修を行い、多岐にわたる同社のコンクリート2次製品の名称、特徴を頭に叩き込んだ。社独自の製品では「MXシリーズ」に力を入れている。「MX側溝は側面がフラットで、道幅が広く取れ、経済性、施工性に優れています」と説明する横顔は真剣そのものだ。

また、同社ではISO9002に基づき、徹底した品質管理のもとで製品を提供。納品についても、「朝一番の納品がモットー。顧客の要望には迅速に対応します」と力強く話した。鹿児島市上荒田町29－23。

鹿児島市管工事協組等

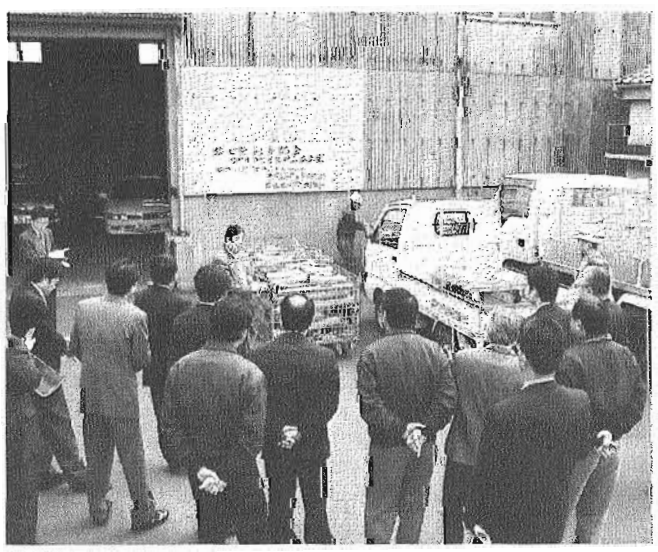
リサイクルシステム立上式

塩ビ管廃材を受入

鹿児島市管工事協同組合（肥後勝司理事長）と塩化ビニル管・継手協会は19日、鹿児島市の日本通運鹿児島営業所で塩ビ管等廃材の回収を開始するにあたり、「塩ビ管継手協会リサイクルシステム立上式」を実施、組合員及び関係者が出席し、循環社会へのスタートを切った。

今回の取り組みは、塩化ビニル管・継手協会と全国管工事協同組合連合会等による協議の結果、塩ビ廃材のリサイクル事業が全国的に実施されることになり、本県でも開始するもの。既に全国51カ所で実施しており、本県の受け入れ場所で収集した廃材を10トンダンプで随時、佐賀県の九州ビニール工業を受け入れ拠点に搬出する。

立上式では、塩化ビニル管・継手協会の中村哲夫環境委員が「鹿児島県でもリサイクルに対する理解が深まり、県でも再生管の利用に前向きに取り組んでもらっている。循環型社会の実現へ向け会員の協力が大切です」と挨拶。鹿児島市管工事協同組合の和田正憲副理事長（アイワ工業社長）が「三方一両損と言う有名な落語の話がありますが、リサイクルを実現するためには、メーカー、業者らが互いに負担し、取り組まなければならない。リサイクルがスムーズに機能するためにも、会員各社の協力をお願いしたい」と述べた。


会員各社の協力を呼びかけたシステム立上式＝鹿児島市の日本通運鹿児島営業所で

続いて、ダンプトラックに積み込まれた収納用カゴ（塩化ビニール管）の受け入れを開始、フォークリフトでトラックに積み込まれた塩ビ管等の廃材が手際よく下ろされた。このあと、廃材などの受け入れ基準や種類などの説明が行われ、受け入れのセレモニーを終えた。

なお、本県の受け入れ場所は日本通運鹿児島営業所（鹿児島市新栄町8－17 ☎099・225・3771）。

フジヤマ 鹿児島市社協に寄付金

福祉の更なる向上へ

建設設備工事や自動機械設計製作等を手掛ける㈱フジヤマ（藤山敏己社長）は19日、鹿児島市の同市社会福祉協議会を訪れ、福祉活動の更なる向上を願って、寄付金を贈呈した。

日頃いただく感謝の意です――と寄付金を手渡す藤山社長（右）＝鹿児島市の同協議会会長室で

今回の贈呈は、福祉活動の支援はもとより、日頃の感謝の意を込めて、同社が今月13日、第8回鹿児島商工会議所産業経済賞特別賞を受賞、その賞金20万円を寄付するもの。贈呈式では、藤山社長が「会社発展は、皆様のご支援のお陰であります。ここに日頃の感謝の意も込めて寄付金を贈呈致します」と言葉を寄せ、西小野昭雄同協議会会長に寄付金を手渡した。

目録を受け取った西小野会長は、多大な功績を称えると共に、「幸せに安心して暮らせる福祉のまちづくりに大切に使わせて頂きます」と感謝の言葉を述べた。

藤山社長は「今があるのは、皆様に仕事の場を与えて頂き、積み重ねて技術向上が図られたこそ。これからも、この感謝の気持ちと人の資質を大事にして、微力ながらも社会貢献を果たしていきたい」と抱負を語った。

九州テクノリサーチ

リアル・オルソ全国展開中

写真上で距離等概測

九州テクノリサーチ㈱は、写真上で距離、面積、角度等が概測でき、しかも立体的な地形の把握ができる「リアル・オルソ」（商標登録名）画像を開発、桝谷精工㈱（和歌山市）、㈲京塚測量設計（熊本県）と業務提携を結び、全国展開を図っている。リアル・オルソ画像は企画提案資料や説明会資料、広報誌など広範囲に活用できる。このほど新しいパンフが完成、希望者に配布中。パンフ希望の向きは、同社航空事業部（☎0994・43・0675）まで。

命と生命を守る新国土づくり研究会

きょう、東京都で

鹿児島県など渇水など河川や利水に関する多くの課題をかかえる全国10府県の知事による13年度「命と生活を守る新国土づくり研究会」は20日午後4時から、東京都千代田区のホテルニューオータニで第9回の研究会を開く。

購読料のお支払いはお手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ